

2023年斉藤県議の県議選第一声（8月25日）

斉藤信の県議選第一声に、熱い中お集まりいただいた皆さん、ありがとうございます。ご町内の皆さんには9日間大変お世話になります。心からお願いと感謝を申し上げます。

今回の県知事選と県議選は、今までになく重要な選挙戦であります。何よりも県民の命とくらしがかかった選挙です。同時に、自民党丸抱えの知事候補による県政奪還の野望を許さず、全国に誇る達増県政の継続発展を勝ち取る選挙でもあります。岩手から野党共闘の力を発揮し、オール岩手の共同を広げ岸田自公政権の悪政に対する審判を下す選挙です。皆さんのご支援をいただいて必ず勝ち抜く決意です。最後まで力強いご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

この4年間は、東日本大震災津波からの復興に引き続き取り組み、11年間、被災者の医療費免除の取り組みを進めてきました。新型コロナ感染拡大については、無料のPCR検査と高齢者施設等での定期的な検査を実施させ、20ある全国一の県立病院のネットワークで入院患者の7割に対応するなど、県民の命と健康を守る取り組みに全力を挙げてきました。

昨年以来の物価高騰対策では、いち早く知事に具体的な対策を申し入れ、全国に先駆けた物価高騰対策を実施させてきました。今年度は、4月28日の臨時議会と6月議会による2度にわたる60億円余の補正予算で、LPガス高騰分の半分を補助する対策、低所得世帯への支援、医療・福祉施設への支援、農家・酪農家への支援策、中小企業支援策を打ち出し、昨年度より拡充する対策を講じています。県民の願いで県政を動かす、達増県政の推進力としての役割を果たしてきたのではないのでしょうか。

今回の知事選、県議選にあたって、私は**第一に、最も切実な物価高騰対策に取り組み県民の暮らしと営業を守るために全力を挙げます。**

達増知事は、「年度途中でも物価高騰対策を行い、生活・事業で困窮する人を迅速に支援する」と明確に訴えています。物価高騰対策への願いは達増知事候補と県議は斉藤信に是非お寄せください。

第二に、急速に拡大する新型コロナ対策に全力を挙げ、県民の命と健康を守ります。

先週のコロナ感染者は前の週と比べて1.8倍に急増し、一日あたりでは約1300人の感染拡大となっています。

新型コロナが終わったかのような岸田政権の緩和一辺倒ではなく、感染対策の徹底、無料のPCR検査の実施、必要な病床の確保に全力をあげます。

焦点になっているのが県立病院の在り方です。達増知事は「岩手の強みである医療と教育はさらに充実を図る」と明言し、県立病院の体制を充実すると訴えています。一方で自民党丸抱えの候補は、「20ある県立病院を維持していくのは非常に厳しくなる」と述べています。岩手の地域医療を支える全国一の県立病院を維持・拡充し、新型コロナに対応し県民の命と健康を守る選挙にしようではありませんか。

第三に、全国トップクラスの子育て支援策をさらに充実させ、人口減少対策・少子化対

策に取り組みます。

達増県政は、私たちの提言を受け止めて、4月から第2子以降の保育料の無償化と在宅育児支援に月1万円の支援を実施しています。この二つをセットで実施しているのは岩手県だけの取り組みです。33すべての市町村と共同で取り組んでいることも重要です。達増知事は「一層拡充を図る」としています。県内ではすでに13市町村が第1子からの完全無償化を実施しています。全県で第一子からの保育料の無償化をめざします。

学校給食費の無償化は、県内10市町村で実施しています。国に先駆けて県内全市町村での給食費無償化の実現に取り組みます。

子どもの医療費は高校生まで拡充され、8月からは病院の窓口無料化・現物給付化が実施されています。全国で6番目の取り組みです。さらに一部負担・所得制限の撤廃を目指します。

第四に、お年寄りが安心して長生きできる社会の実現を目指します。

少ない年金でも入れる特養ホームの増設、加齢性難聴者への補聴器購入補助、介護保険料・利用料の軽減に取り組みます。暑い日が続いています。特に高齢者のエアコン設置への補助も緊急に取り組みます。

第五に、気候危機打開、ジェンダー平等社会の実現を目指します。

県有施設、民間の住宅等に省エネ、再生可能エネルギーを徹底し、県とすべての市町村でパートナーシップ・ファミリーシップ制度の条例の制定を目指します。

皆さん、今度の知事選、県議選は、岸田自公政権の悪政に対する県民の審判を下す選挙でもあります。

●毎週のようにガソリン代や食料品が値上げしています。岸田政権は何の物価高騰対策も取らず、やっていることは軍事費を2倍にし、5年間で43兆円もの軍事費投入です。そのために復興特別所得税の半分を軍事費に流用しようとしています。大軍拡はやめ平和とくらし守れの審判を下しましょう。

●マイナカードを強制し、使い勝手の良い健康保険証を廃止する暴走で、大混乱と怒りの声が広がっています。これは6月の国会で自民、公明、維新、国民の悪政4党連合で強行されたものです。6月県議会で、「健康保険証の廃止は中止せよ」の意見書が採択されました。全都道府県議会では初めてのことでした。マイナ暴走はやめ、健康保険証を守れの声はぜひ日本共産党の斉藤信にお寄せください。

●最後に、昨日、東京電力福島原発事故による汚染水の海洋投棄が強行されました。「関係者の理解なしには、いかなる処分も行わない」と文書で交わした約束を踏みにじる暴挙です。すでに風評被害が表れています。「原発汚染水の海洋放出はやめよ、他の解決方法を検討せよ」の審判を下す選挙にしようではありませんか。

私は、前回10番目の当選でした。「選挙は最後まで頑張りぬいた候補・陣営が勝利する」この選挙の鉄則を最後まで貫いて頑張ります。「県議は斉藤信、知事は達増拓也」—この支持を広げに広げてください。必ず勝ち抜く決意です。どうぞ最後までよろしく願いします。